

第1章

ゆるっと解説 アカデミックライティング



CONTENTS---

・ アカデミックライティング



大学の課題でレポートが出題されたよ
何をしたらいいんだろう？



期末と言えばレポート。こうやって何人もの学生が徹夜でレポート
を書いて夏休みや春休みを迎えるんだよね～



ちょっと、話聞いているの？
レポート出されたけど何したらいいかわからないんだよ……



ごめんどめんど。まずは「レポートとは何か」から入った方が良さ
そうだね！
アカデミックライティングって聞いたことあるかな？



あーなんか先生が言ってたような気もする



大学のレポートの基本はアカデミックライティング。これをもとに、
いわゆる学術的な文章を書くんだ

日本の大学教育ってなかなかいい加減なところが多いです。とりわけレポートに関しては大した指導をされることもなく、学期末にいきなり2000字や3000字のレポートを課すのです。

慣れてしまえば大したことはないのですが、初めのうちはこれだけの長文を書くのは大変です。そのうえ、レポートは単なる感想文や作文とは違います。学術的な作法にのっとって書かなければなりません。

まずはレポートの基本を理解すべく、アカデミックライティングについて学びましょう。この「アカデミックライティング」や「レポートの書き方」と題される資料、多くの大学が学生のために発行しているのですが、読んだことはあるでしょうか。

作った方には申し訳ないのですが、何というか、おもしろくないんですよ。それでいつも何となくレポートを書いて終わる。そんな方が多いのではないのでしょうか。そんなアカデミックライティングについて楽しく考えてみましょう。

◎この章で扱うこと：アカデミックライティング

1：なぜレポートを書くのか



「レポート」

高校生の時はまったく聞かなかったのに大学生になった途端に増えたなー



たしかに！ レポートっていわれると大学生らしいなーって思うかも！



今まではテストばかりだったでしょ？ どうしていきなりレポートを書かされるようになるの？ テストじゃだめなの？



それはきっと、大学は正解のない問題を考えるところだからだね！

大学の勉強って未知への挑戦なのです。

高校生までは教科書に書いてあることを習って、そのことをテストで覚えて……の繰り返しです。ところが大学はそうではありません。教科書にないことを探求したり、ひょっとしたら教科書に書いてあった「当たり前」が覆ったりすることもある。

では、「正解のないこと」ってテストできるのでしょうか。

きっとできないと思います。だから自分なりに「問い」や「答え」を設定して、1つの文章としてまとめ上げることを求められるのです。それを確認するためには……レポートしかないですね。

2：アカデミックライティングの作法



「アカデミックライティング」とかって先生が言ってたなー
アカデミックにライティングをしないとイケないんだねー



棒読みくさいなー。でも言ってることは確かに正しいね
大学のレポートは基本的にすべて「アカデミックライティング」が
求められるんだ



アカデミックなライティングかー頭良さそうに書けてることが
よし、それじゃあ……



あああーストップ！ そんなに難しく考えないで！
アカデミックライティングって実はこれだけのことなんだ！

◎アカデミックライティングの作法

- ・わかりやすい文章であること
- ・客観的な文章であること
- ・感想文ではないこと



わかったようなわからないような……



まあ、これはおいおい解説するとして、先に進んでみよう

3：コピペ、ダメ、ゼツタイ。



……って先生が言っていました



もちろん。コピペって聞くと軽く考えがちだけど、学問の世界では剽窃（ひょうせつ）といって立派な犯罪行為なんだ

◎やってはいけないこと……剽窃

インターネット上の文書を含む、あらゆる文献を無断、引用などの表記なしにコピペすることを剽窃といいます。学問の世界の重大犯罪であり、絶対にしてはいけません。その授業の単位がなくなるのはもちろん、場合によってはその学期のすべての単位が無効になります。



コピペ禁止でしょ？

だったら自力ですべて書くのかー大変だな……



もちろん、レポートを「書く」ことは自力でする

けど、アカデミックライティングはそれだけでは不十分なんだ
どうしてかわかるかな？



えーっと、どうして？

4：文献を参照する・引用をする



さっき話したアカデミックライティングの作法、

- ・わかりやすい文章であること
- ・客観的な文章であること
- ・感想文ではないこと

これに答えるには必ず「文献」が必要なんだ



もし、何も文献を使わずにレポートを書いたらどうなるの？



レポートにもよるけど、

「そのレポートに書いたことは全部あなたの想像ですか？」って言われるかもね笑



そうか。ただレポートを書いても、何も説得力のない机上の空論にしかならない、だから文献が必要なんだ



引用はコピペとは違う

「誰のどんな文献から抜き出しました」ってことを堂々と表記すれば立派なキミのレポートとして認められるよ！

◎アカデミックライティングで必要なこと

- ・文献を参照して書く
- ・引用をする場合は決まりにのっとって堂々と引用する

5：アカデミックな文章の特徴

アカデミックライティングの文章の特徴は次の通りです。

◎アカデミックライティングの文章の特徴

- ・「問い」と「答え」を書く
- ・根拠と論理的な説明をする
- ・序論・本論・結論の三段構造で書く
- ・パラグラフ構造で文章を書く
- ・おかたい文章で書く
- ・正しく文献や引用の表記をする



ざっと洗い出すとこんな感じ。レポートを書くときにこのポイントを意識してみよう



言われるのと実践するのは違うんです



あーすねないで！ もう少し詳しく説明するからー



ごめんどめん。でも、わかりやすく客観的、それでいて感想文ではない文章っていったらこんな特徴になるかも



ここからちょっと長くなるよ！ 頑張って！

5.1：「問い」と「答え」を書く



いきなり難しいことを要求してくるね……



でも、これがレポートを書くときに一番に考えることで、この部分をどうするかでレポートの方向性が決まるんだ



「問い」と「答え」か。でもそんなことレポートの指示に書いてないよ
ほら、これも「〇〇について論じなさい」って書いてある



それでも、アカデミックライティングでは「問い」と「答え」を設定するのが作法なんだ。まずは、指示を分解するところから考えてみよう

◎指示を分解する

「〇〇について論じなさい」と言われたらその指示を分解しましょう。
例えば、「日本の大学教育について述べなさい」と指示されたのであれば、

- 日本の大学教育の問題点は何か
- 高校とは違う大学教育の特徴は何か

このようにテーマを少し深掘りして読み替えます。これが「問い」です。

ここに自分なりの「答え」を付け足して、指示を整理してみましよう。
関係する文献を参照しながら、何なら実証できるかを考えます。卒業論文レベルになると「問い」と「答え」の設定はすべて自分で行うことになります。

5.2：根拠と論理的な説明を加える



「問い」と「答え」か

でも、それだけだとレポートが一瞬で終わっちゃうよね



その通り。単に「問い」と「答え」を書くだけでは100字で終わっちゃうよね。何より説得力が皆無



そっか、だから「根拠と論理的な説明を加える」必要があるんだね



そのとおり！ その根拠になるのが文献で、論理的な説明はパラグラフライティングで伝えるんだ



自分で「答え」を設定する、その「答え」のために文献を調査する大変そうだなあ



まあ、この段階で構成を考えながらまとめるからね
もう少しの辛抱！

◎根拠を探す・説明する

「問い」と「答え」を羅列するだけではレポートは一瞬で終わってしまい、説得力も皆無です。だから、その根拠となりうる文献を探します。

その根拠は書籍の中の記述、数値データ、実験、フィールドワークなど様々です。そこに論理的な説明を加えます。

5.3：序論・本論・結論の三段構造で書く



文献を集め終わって、「さあ書くぞ」じゃあどうせダメなんだよね



よくわかってるじゃない
まずはアウトラインを決めることがオススメ！
次のポイントを意識してみよう！

◎ポイント

- ・基本は序論→本論→結論の三段構造で組み立てる
- ・「問い」と「答え」を説明する根拠に使える文献、データ、資料を抽出する



ちょっと複雑になるので、地の文にお任せします

序論・本論・結論の三段構造はどのように書いたらよいのでしょうか。
具体的にそれぞれの書き方を考えてみましょう。

◎序論：「問い」と「答え」を書く→導入

序論では「このレポートで私は何をするのか」を書きます。

具体的には「問い」、「問い」の背景、「答え」を紹介します。日本語の構造的に「答え」は最後に持ってくるのが好まれますが、特別不自然にならない限りは冒頭で「答え」も書いてしまいましょう。

◎本論：なぜ「問い」が「答え」のようになるのかを示す→論証

本論では資料をもとにいえることを書き出し、考察を行います。この課程が論証にあたります。卒業論文など長い文章の場合はこの部分で論証で用いる資料の紹介、考察方法の説明も行います。

高度ですが、実は同じ「問い」と「答え」を提示して、同じ資料を与えれば、誰でもほとんど同じような文章が書けてしまうのです。この自然さのレベルが高ければ高いほど客観的な文章といえます。

◎結論：レポートの内容をすべて回収しながらまとめる→まとめ

結論、つまりは総まとめです。本論のことを簡潔にまとめ、再び自分の「答え」を提示すれば全体が締まります。レポートのレベルによっては調査の限界や今後の展望を書いてもよいでしょう。



……とまあこんな三段構造で書いていきますよ、と
何となく流れがわかったかな？



何となくわかったようなわかってないような……



そうだよ。まだ抽象的だと思う
次は実際にどんな感じの文章を書くかを考えてみよう

5.4：パラグラフ構造で文章を書く



いよいよ文章を書くのか。この書き方がなんともな……



パラグラフライティングって知ってるかな？
アカデミックライティングではこの書き方をします



パラグラフ、段落か。段落がどうして大切になるの？



ここでいうパラグラフは「意味の区切り目」と考えてみよう
具体的にはこんな特徴があります

◎パラグラフの特徴

- ・トピックセンテンスが含まれる
- ・見出しがつけられる
- ・トピックセンテンスに関連する情報が書かれる

パラグラフには、最初に「その段落でしたいこと、言いたいこと」が書かれます。また、段落ごとに「○○の説明」「○○の理由」といった見出しがつけられなければなりません。それをもとに、トピックセンテンスの主張を補強する情報が書かれます。



このパラグラフ、段落を組み合わせて、最終的に一本のレポートになるんだ

5.5：おかたい文章で短く書く



「おかたい文章」とは次のような書き方である



え、ちょっといきなりどうしたの？



今までの私たちの会話のような書き方は不適切である
地の文のような「です・ます調」の書き方も不適切である



おかたいて、そういうこと？



では、疑問文はどのように書くのだろうか
今書いたようにこのように書くのである



ちょっと、何言ってるの。絶対その口調向いてないって！



また、一つの文章には一つの主張が入ることを意識する
まさに、今書いているとおりの方法である



……



特に論証部では「思う」「だろう」といった主観的な文章をなるべく
避けるとよいと思う



うん？ 言ってること矛盾してない？



……あ！

レポートの文体にはある程度慣れが必要です。以下のポイント意識的に使ってみましょう。

◎レポートに適した文章の書き方

- いわゆる「かたい」書き方を
「～である。」「～だろうか。」などをよく使う
「～だ」は避けた方がよいとされることがある
- 一文一義（一つの文章に一つの主張や意見）を意識する
- 特に論証部を中心に「思う」「だろう」などの主観が混じりそうな表現は避ける

5.6：文献や引用を正しく表記する



いよいよ終わりに近づいてきた！

コピペは厳禁だけど、堂々と引用して、正しく文献情報を表記すればいいんだよね！



そのとおり！

むしろ、まったく文献がないのは場合によってははねられるかも



時間かかるけど、ちゃんと文献も書いて

……よしできあがり！



お疲れ様でした！

引用には引用のルールが、参考文献の表記にも決まりがあります。ちょっと長くなってしまうので、第5章で参考文献と引用について解説します。

これでアカデミックライティングの「書く」に関する基本的な解説は終わりです。ここではアカデミックライティングについてとにかく親しみをもってもらい、わかりやすく伝えられるように心がけました。

この章のアカデミックライティングは何となく「こんな感じか〜」、「そこまで難しくなさそう」くらいに考えてもらえれば大丈夫です。

実際にアカデミックライティングにはこれ以外にもたくさんの要素やテクニックがあります。ここからの章で学んでいきましょう。

ここまで読んでくれたあなただけに……！



レポートが苦手……

それでも

4000字のレポートもラクラクに！

レポートが苦手……

レポートをラクに書きたい……

レポートをもっと上手に書きたい……

そんなあなたにおすすめ！

レポートのハテナをすべて解決する、オリジナルテキストを紹介します！

レポートの
・基本 ・感想・参考文献
・準備 ・要約・テンプレ
・書き方・書評・ウラワザ



全部解決！



大学発行や市販のレポートの本……

「あんまりおもしろくない！」

そんな思いから生まれました

200 ページ以上でじっくり解説

- ◆第1章：ゆるっと解説アカデミックライティング
- ◆第2章：情報収集と資料の読み方
 - 2.1：情報収集の方法
 - 2.2：資料の読み方
- ◆第3章：レポートの書き方
 - 3.1：感想型のレポート書き方
 - 3.2：テーマ設定、情報収集をするレポートの書き方
 - 3.3：書評レポートの書き方・要約の書き方
 - 3.4：抽象的、難しい、長文のレポートの書き方
- ◆第4章：徹底研究！ 頻出テーマ
 - 4.1：多文化共生・グローバル化
 - 4.2：ジェンダー
 - 4.3：セクシュアリティ・性の多様性
 - 4.4：労働
 - 4.5：教育
 - 4.6：日本文化
- ◆第5章：参考文献と引用
 - 5.1：参考文献の書き方
 - 5.2：英語、ヨーロッパ系言語の参考文献の書き方
 - 5.3：脚注の書き方
 - 5.4：参考文献を早く書く方法
 - 5.5：引用の方法
- ◆第6章：レポートで気になるあれこれ
 - 6.1：レポートのフォーマット、表紙
 - 6.2：書き言葉の表記
 - 6.3：人物名の表記
 - 6.4：数字と記号の表記
 - 6.5：レポートを早く書くためのショートカットキー

これ1冊に……



これだけ入ってます！
200ページ、6万字over！

6万字って言うと少し薄めの新書くらいあります笑

会話文形式で流れるように読める



アカデミックなライティングかー頭良さそうに書けてことかよし、それじゃあ……



あああーストップ！ そんなに難しく考えないで！アカデミックライティングって実はこれだけのことなんだ！

◎アカデミックライティングの作法

- ・わかりやすい文章であること
- ・客観的な文章であること
- ・感想文ではないこと



わかったようなわからないような……



まあ、これはおいおい解説するとして、先に進んでみよう

どんな本よりも「楽しく、わかりやすく。」 会話形式で楽しく読めるコンテンツ！

基礎から準備、レポートの書き方まで



ブログで読めないオリジナルコンテンツ



レポートの書き方だけじゃない

- ☑ 頻出テーマ解説
- ☑ レポートのアプローチ

第4章

徹底研究!
頻出テーマ

楽しい講義形式でお届け！

購入者特典の完全オリジナルコンテンツ

レポートの頻出テーマとレポートでのアプローチを徹底解説

ドンピシャの課題が出たらこの本だけで書けるかも……

世界一わかりやすい参考文献の書き方

Michael Karlsson, Annika Bergström, Christer Clerwall, Karin Fast,
"Participatory journalism – the (r)evolution that wasn't. Content and
user behavior in Sweden 2007-2013", Journal of Computer-Mediated
Communication, Volume 20 Issue 3, pp.295-311.

↑↑

この書き方もばっちりマスター！



辞書代わりに使える！

参考文献と引用の書き方だけで 13,000 字を費やしました。

ほかの本にはない役立つコンテンツ

6.5.1 : 公用文スタイルの番号

1 → (1) → ア → (ア)

これを使うかという正直微妙です。法律関係では書かれることがあるので、法学部では使う場面もあるかもしれません。

また、レポートではなく、企業の資料などでは使うことがあります。一応、決まりがあるんだな、程度に知っておいてもらえればと思います。

公用文スタイルの番号の暗号
(第1) -1- (1) -ア- (ア) -a- (a)

範囲を選択してスクリーンショット
Shift + Window + 5
command + Shift + 4

必要な部分だけスクショできるので、レポートでは大活躍です。

○割詞

- ・数えて → あえて
- ・予め → あらかじめ
- ・一躍 → いっそう
- ・一体 → いったい
- ・概ね → おおむね
- ・歸って → かえって
- ・沢山 → たくさん
- ・既に → すでに
- ・折角 → せっかく
- ・大体 → だいたい

知ってるだけでレポートのスピードがグッと上がる！

さらに……



今だけ限定特典！

購入でもれなく
同書籍のテキスト版が読める！

Kindle電子書籍と合わせてもっと便利に
電子書籍とのテキスト版が今だけ限定で手に入る！

そんなテキスト版の特徴は……

見やすく明快的レイアウト

1.5.2：根拠と論理的な説明をする

説明は文献です

レポートはつまるところ、「問い」と「答え」を示す文章です。

しかし、「問いは〇〇である。答えは〇〇である。」ではレポートは一瞬で終わってしまいます。文字数が足りないのはもちろんのこと、説得力がありません。

レポートは誰が読んでもその理由、論理展開が自然に理解できるように書かれなければなりません。

会話文は一切なし 見やすい！ 探しやすい！

ずっと使える保存版 『レポートの書き方が楽しく学べる本』



下記リンクから
チェックしよう！

ご購入は[こちら](#)。または QR コードから！



リンクしない場合は下記 URL を貼り付けてアクセスしてください。

<https://hanndaimaruwakari.work/kindle-note>